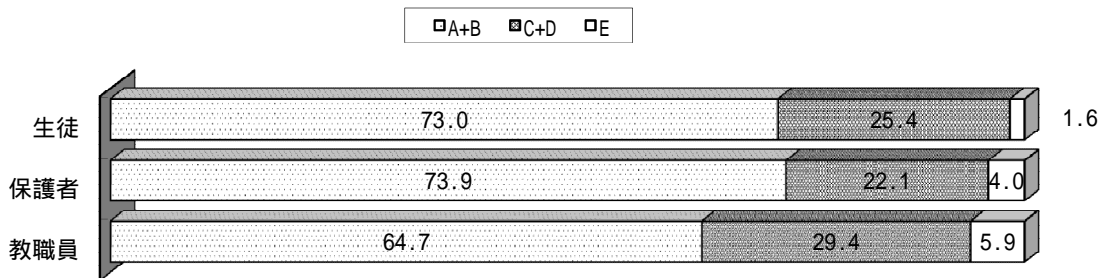


3. 学校の子どもたちに対する指導について

生徒 先生はわたしたちの話をよく聞いてくれる。
 保護者 学校は、子どもたちの生活指導に熱心に取り組んでいる。
 教職員 この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。

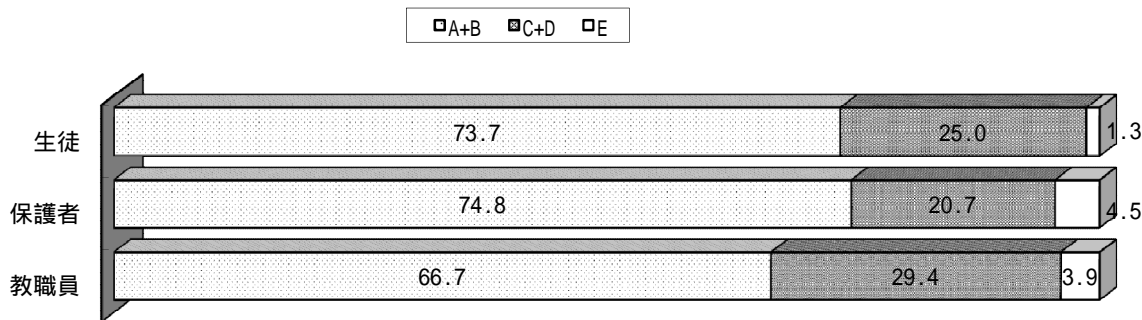


[分析]

全体の7割を超える生徒及び保護者が肯定的に見ている。特に生徒の値が平成19年度から比べると7ポイントほど上回っていることから、各学校での教育相談体制や子ども理解(カウンセリングマインド)に視点を置いた指導を進めてることが成果として表れていると考える。
 子どもを取りまく生活環境が多様化、複雑化している現状を踏まえ、適切な指導を行うための実態把握に努めるとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携しながら、チーム対応によるきめの細かい対応が求められる。

4. 「心の教育」や規範意識の育成について

生徒 人権の大切さや社会のルールについて道徳の授業などで学ぶ機会がある。
 保護者 学校では、中学生として守るべきルールやマナーについても適切に指導してくれる。
 教職員 この学校では、生徒が人権の大切さや社会的ルールを身につけることができるよう、年間指導計画に基づき、道徳教育を継続的に行っている。



[分析]

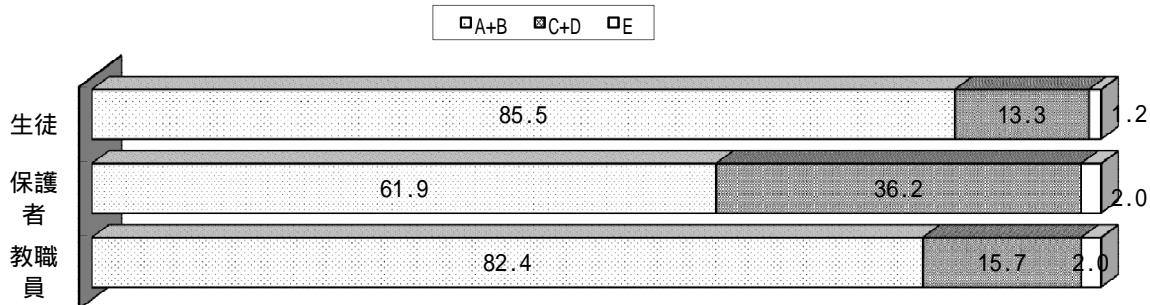
各学校においては、今までの人権教育に係る実践成果を柱に、本年度より道徳教育についても生徒の発達段階に応じて計画的に推進が図られている。町全体で取り組む職場体験学習等、子どもたちの社会性を培う多様な取組みを進める中で、7割を超える子どもが肯定的に捉えている(昨年度比+6.6ポイント)。
 豊かな人間性の育成を目指した道徳教育の充実を図るため、道徳の授業を学校教育の要として位置付け、学校全体で組織的に進めていくことが求められる。

5. 学校の部活動について

生徒 この学校は部活動が活発である。

保護者 部活動は子どもたちのニーズを充たしている。

教職員 この学校では、部活動の活性化に努力している。



〔分析〕

各中学校とも生徒の9割近くが部活動に加入し、活発に活動していることから、多くの生徒や教師が肯定的に捉えている。しかしながら、保護者の一部は部活動について更なる期待を寄せていることがうかがえる。

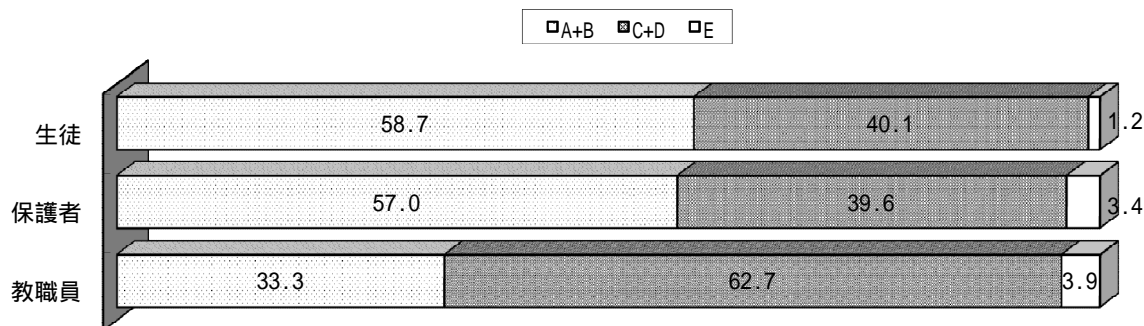
子どもや保護者のニーズに対し、地域人材の活用(外部指導者派遣)や中学校区の弾力的運用を図り対応してきているが、部活動の充実については今後も検討が必要である。

6. 学校の施設・設備について

生徒 学校の施設・設備は、学習環境面でほぼ満足できる。

保護者 学校の施設・設備は、学習環境面でほぼ満足できる。

教職員 学校の施設・設備は、学習環境面でほぼ満足できる。



〔分析〕

各学校とも老朽化が進んでいる現状はあるが、学校図書館の整備やトイレの改修等により、生徒、保護者の6割近くは肯定的にとらえている。

教職員は夏季休業日の短縮に伴い、学習環境面で普通教室に空調設備の設置等のニーズがあると考ええる。